

兵庫県 の 地震 活動

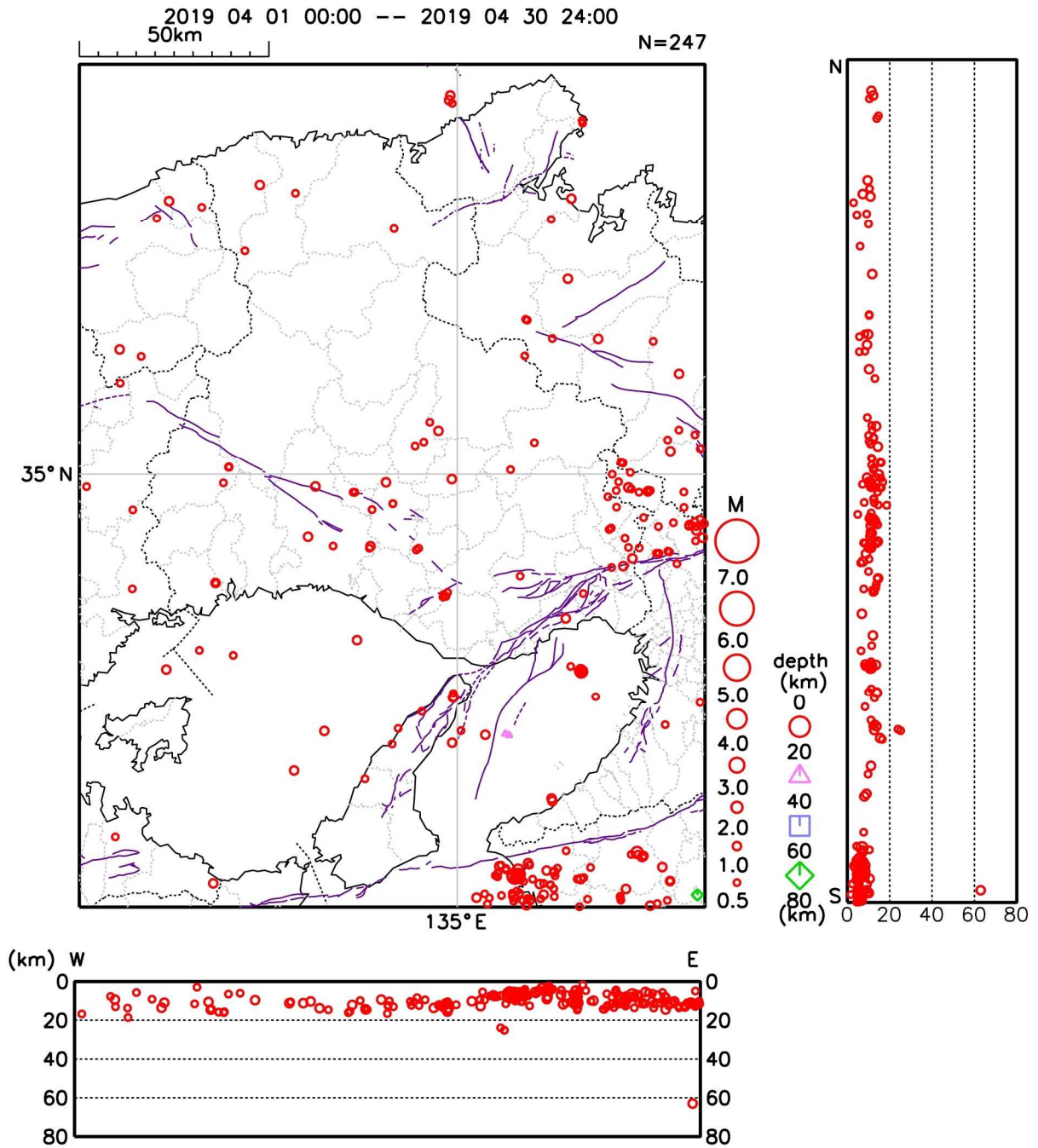
2019 年（平成 31 年）4 月

震央分布図・断面図	1
概況	2
一口メモ	
冊子「正確な震度観測を行うために」について	2

- * 「兵庫県の地震活動」は月 1 回発行し、兵庫県内の地震活動状況をお知らせするとともに、社会的に関心の高い地震について適宜解説を行います。また、「一口メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。
- * この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- * また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

神戸地方気象台

震央分布図・断面図



左上：震央分布図 右上：東から見た断面図 左下：南から見た断面図

注) 分布図の紫線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

概 況

—4月の概況—

今期間、兵庫県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした。

一口メモ

冊子「正確な震度観測を行うために」について

気象庁が発表する地震情報は、テレビ等で報道されるとともに国や地方公共団体等の多くの防災機関で利用され、地震災害が発生した際の被害の推定や、迅速かつ適切な初動体制・広域応援体制の確立など、地震防災上不可欠なものとなっています。

震度は、隣接する場所であっても震度計が設置される地盤等によって観測する値は異なります。そのため、観測した震度を地域の防災対応の基準として用いるには、震度計をその地域の揺れを代表する場所に設置することが望ましく、埋立地など局所的に特殊な揺れとなるような地盤や通行車両による震動が大きな場所などは避ける必要があります。また、落下物の衝突など、地震以外の影響による誤った観測を行わないように震度計を設置、保護しておくことも重要です。

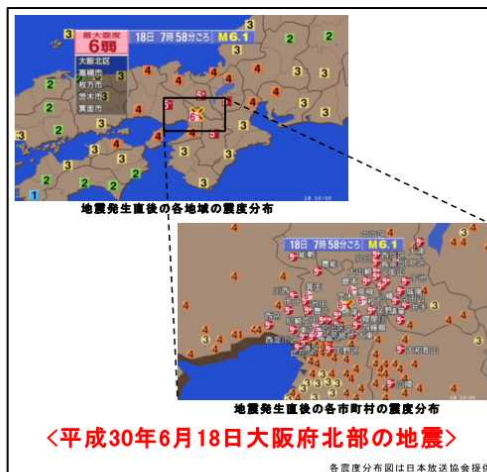
このような理由から、気象庁では、地震防災上不可欠な震度を正しく観測するために望ましいと考える設置場所や設置の仕方等を取りまとめ、平成21年度に現行の「震度計設置環境基準」を定め、この震度計設置環境基準をもとに気象庁、地方公共団体、(国研)防災科学技術研究所の震度計の設置環境調査を行い、気象庁が発表する地震情報に利用するかどうかの判定を実施しました。気象庁や地方公共団体等が設置する震度計を新設、移設等を行い、気象庁が発表する地震情報に利用する場合には、この震度計設置環境基準をもとに設置環境調査を行って頂く必要があります。

冊子「正確な震度観測を行うために」は、この震度計設置環境基準をより理解しやすくするための解説書です。震度計を設置する際に利活用して頂くことを期待しています。今般、冊子「正確な震度観測を行うために」について、解説文や図等を追加する等、内容を充実する改訂を行いました。一括印刷が可能な資料を気象庁HPに掲載していますのでご参照ください。

冊子「正確な震度観測を行うために」平成31年3月1日更新 掲載場所

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/shindo-kansoku/>

正確な震度観測を行うために



気象庁
平成31年3月

